

鵬翔流吟友会 理念

千詩万詠して心身を磨き、

古今の風雅に親しみ遊びては、

花鳥風月を友とし天恵に謝す。

先人古哲の精神に学んでは

礼と節とを以って人間陶冶に努める。

自ら心魂洗い浄めて、

真善美全き世界を求むるは

是、愛と誠の鵬翔会なり。

鵬翔流吟友会 会詩

提携ていけい 師友しゆう 鷗盟おうめい を結むすび

偏ひとへに詩歌しにかを探さぐつて妙聲みよせうを琢みがく

風雅ふうがの精神せいしん 承継しょうけいを誓ちかい

更さらに期きす吟道ぎんどう 百年ひゃくねんの誠まこと

ご挨拶

鵬翔流吟友会

会長 梶田鵬翔



新年あけましておめでとうございます。

昨年令和二年は新型コロナウイルスによる感染症の大流行の為、オリンピックを初め、我が鵬翔流の創立十周年記念大会、及びその他のあらゆる行事や計画が雲消霧散してしまいました。今年もワクチンが出来たとは言え、終息するとは思えない状況にあります。これは天災ではなく人災であると認識されてる人も少なくないと言えましょう。これからの私達が何をどうしてゆくのかを神様に問われているような気がしてなりません。

大聖者キリストの最後の審判とはまさに只今、そしてこれから先も起きてくるであろう大三災が、予想されます。「禍転じて福となる」という言葉がありますが、世界中の大掃除が終わった暁に「福」来る時の到来となるでしょうが、まだまだ遠く果たして存命の内に来るのでしょうか!! 何はともあれコロナ禍での初吟会の開催は非常に勇気のいることで、多少のためらいを隠せませんが、しかし何もせず、じつとして意気消沈するばかりです。万全の用意周到をもつて皆さんと共に元気に一年のスタートを切つて参りましょう。過日の役員会でも前向きな発言が出たことを大変心強く思っております。

また、そのような中、来賓の顧問の先生方を初め、舞の先生方には、華を添えて頂けます事に深く感謝申し上げます。

最後に皆様のご健勝、ご多幸を心からご祈念申し上げます、新春を寿ぐご挨拶とさせて頂きます。

大会係り役員

大会 会長

梶田鵬翔

大会 副会長

飯田鵬齋

大会 副会長

山中清翔

大会 実行委員長

川添壮翔

大会 実行副委員長

笹岡蒼翔

大会 事務局

○川添壮翔

宝蔵瑤光

会場準備

○岩田晟光

川添壮翔

(屏風運搬)

笹岡蒼翔

会費会計

○松木鴻光

接待

○宝蔵瑤光

森田蓮光

小笠原燐紫

司会

○飯田鵬齋

松木鴻光

松代怜貴

会場進行

○笹岡蒼翔

大野正翔

※ 懇親会は新型コロナウイルス緊急事態につき中止です。

受付案内

○中西鵬鷲

山村彩光
川村櫻翔

大野正翔
西山博貴
横山熙光
浜宇津たまえ

記録広報

○川添壮翔

音響

横山熙光
西山博貴
○山中清翔
鎌田耀紫

新春の集い式典

〈敬称略〉

(一) 開式挨拶

山中清翔

(二) 鵬翔流吟友会理念朗読

先導

川添壮翔

(三) 鵬翔流吟友会会詩合吟

先導

中西鵬鶯

(四) 新年挨拶 「明けまして・・・」

松木鴻光

(五) 門下生挨拶

飯田鵬鴛

(六) 会長挨拶

梶田鵬翔

(七) 来賓挨拶
高知県県議会議員・鵬翔流吟友会顧問

桑名龍吾

高知市市会議員・鵬翔流吟友会顧問

竹村邦夫

鵬翔流吟友会後援会 会長

(八) お免状授与

介添

久武邦雄
川村櫻翔
宝蔵瑤光

(九) 新入会員紹介

第一部 合 吟

1 海を望む 作者 藤井竹外 蒔絵台教室

2 富士山 作者 石川丈山 東雲教室

3 繪の島 作者 菅茶山 棧橋教室

4 烏江亭に題す 作者 杜 牧 南国教室

5 松竹梅 作者 松口月城 長浜教室

6 新正口號 作者 武田信玄 高須教室

第二部

来賓吟詠・会長吟詠

7 元親公初陣の銅像に題す 作者 谷口治水

（敬称略）

桑名龍吾
竹村邦夫
久武邦雄

8 お梶

花柳流

中岡あき
大崎麗蒼

9 君を想う

作詞

古賀政男

土佐麗陽会

梶田鵬翔

第三部

無伝の部

10 金州城下の作

作者

乃木希典

栈橋教室

西岡文子

11 不識庵機山を撃つの図に題す

作者

頼山陽

栈橋教室

西村清年

12 漢詩一題

栈橋教室

浜宇津たまえ

13 弘道館に梅花を賞す

作者

徳川景山

東雲教室

宝蔵正

第四部 初伝の部

14 富士山 作者 石川丈山 東雲教室 小笠原燁紫

15 春の花を尋ぬ 作者 菅三品 棧橋教室 小松成紫

16 汪倫に贈る 作者 李白 高須教室 鎌田耀紫

第五部 中伝の部

17 菊花 作者 白居易 高須教室 山村彩光

18 赤馬が関舟中の作 作者 伊形靈雨 高須教室 横山熙光

19 春夜 作者 蘇軾 長浜教室 岩田晟光

20 湖上に飲す 作者 蘇軾 東雲教室 宝蔵瑤光

21 立山を望む 作者 国分青厓 東雲教室 松木鴻光

22 花朝澱江を下る 作者 藤井竹外 長浜教室 森田蓮光

第六部

奥伝の部

23 早に白帝城を発す

作者

李 白

南国教室

西山博貴

24 寶 船

作者

藤野君山

蒔絵台教室

松代怜貴

第七部

皆伝の部

25 春 風

作者

白 居 易

宇 佐 教 室

大野正翔

26 春 簾 雨 窓

作者

頼 鴨 厓

長 浜 教 室

川 村 櫻 翔

27 汪倫に贈る

作者

李 白

南 国 教 室

笹 岡 蒼 翔

28 春 を 探 る

作者

戴 益

高 須 教 室

川 添 壯 翔

29 寒 梅

作者

新 島 襄

高 須 教 室

山 中 清 翔

30 常盤孤を抱くの図に題す 作者

梁 川 星 巖

栈 橋 教 室

公 文 松 翔

第八部

総伝の部

31 三樹の酒亭に遊ぶ

作者

菊池溪琴

宇佐教室

中西鵬鶯

32 應制天の橋立

作者

釈希世

高須教室

飯田鵬鶯

第九部

会長吟詠

33 我が道

作詞

仁木葉子

鵬翔流吟友会 会長 梶田鵬翔

34 三百六十五歩のマーチ

閉会の挨拶

川添壮翔